

911.3

八



休
待

柴川堂

山川

日 緒 あ ま く い き

日 緒 あ ま く い き

序

曲

支那詩集をもよおす、先來
初ふの懷、重がうる能作の
序玉座を向葉と昇りと
りゆきりてども其事かにと
後は直解とすむを覺じるの
書が寝かあらむ向の聲平
ちえ春水を嘗まの歌を歌
おうこわ葉する所々自ら
音を薄き序との巻を以
圖て加ふるを極めざつて
十の篇の句歌を備へて
和洋の格調とひれの

日録

に季代相

雜代相承雜代相

志の相

七刀下相のぬ

立の

御端代武毎日氣の主

白板のうす

白去代のうす

回向佛事相

回意代板

玄振秋のうす

永少候秋のうす

才紙のうす

用紙のうす

十六番の白紙

春正月辛春孟春聖節

青陽初陽正太郎月

元日雜且年號

歲且新算次

亥方年子代年辰巳年

未代年卯の年未の年

未年子亥年未辰巳年

未年子亥年未辰巳年

未年子亥年未辰巳年

未年子亥年未辰巳年

具足鏡

おもて男

色面

御坐姿

着水井園

蓬萊水

喰つ

ひだ夏

お箸

儀子

因仙り

押鮎

淑の子

櫻去年

がりく

撫打

袖きて

瑟子のこ

すみご

まづく

をと板

故鬼のと

こね板

福引

せら振巴

精引

秀延

大馬舞

合能

子の日北

五指の松

みの日衣

着葉梅

七種

箕尾富

初寅年

十日夫

後ひづれ

男瑞獸

縣召

卯枝両柵

あえひそ

浦安

ぬきどり

帳とも

最入

たん長

きそどん

解

たん長

ゆきどん

景

本の芽

おとす

根付

おとす

おとす

若叶

木の芽

おとす

饭乞 本心の伊家 万表家
羹芋 景子衣 初震

春二月 仲春如月 花朝

中陽令月 梅月 小冲生月

高坐麻配

釋奠

初年

亥日巳申

巳寅八構

二日癸

亥能吉

辰寅午

社日

もの別

巳未

勝用

種ひぐ

種ちう

種また

苗代

穀穢桂炬

聖母燭

涅槃會

諸尊え縁

経のやれ

さり一松

波蘚草

彼岸

初電

鳥の巣

雉子

鬼薊

眉仰見鳥の巣

聖母

わく

おとみ

鼓草

葉の巣

大根の花

あ葉

楊葉

ゆきうき

せんま

田螺

アシカ

峰の巣

春三月

孫生

李春蚕月

楊月

姑洗宿月禊月

禊月禊月禊月

己の日比祓

祓衣祓

上己

鶴鳴

曲水比寔

禊衣禊

雛祭

ひよ挿入

卯年

夷族の祭

稻荷金石山

石山寺

モホト

釋奠

初年

亥日巳申

巳寅八構

二日癸

亥能吉

辰寅午

社日

もの別

巳未

勝用

種ひぐ

種ちう

種また

苗代

穀穢桂炬

聖母燭

涅槃會

諸尊え縁

経のやれ

さり一松

波蘚草

彼岸

初電

鳥の巣

雉子

鬼薊

眉仰見鳥の巣

聖母

わく

おとみ

鼓草

葉の巣

大根の花

あ葉

楊葉

ゆきうき

せんま

田螺

アシカ

峰の巣

春三月

孫生

李春蚕月

楊月

姑洗宿月禊月

禊月禊月禊月

己の日比祓

祓衣祓

上己

鶴鳴

曲水比寔

禊衣禊

雛祭

ひよ挿入

卯年

夷族の祭

稻荷金石山

石山寺

栗味多、百卉生美玉、吐號比黃

赤朱含紅日、萬象是法源、鑿齒齋
序寶松月、隔田川大魚依十音

漢草率、食之食、沙子

金木之花、食之食、鹿の琳

附多は葉、食之食、鷺鶴飯

雲入之香、食之食、麦づる

圓氣熟成、食之食、鰐羨飯

のむ蘿、食之食、鵝飼

鶴子之海、食之食、蟹羨飯

小無之火、鵝翼羹、鵝

のむ蘿、食之食、鵝飼

鶴子之海、食之食、鰐羨飯

小無之火、鵝翼羹、鵝

人之火、食之食、鵝飼

一室鵝、鵝翼饭鵝、鵝

色青之鵝、鵝翼饭鵝、鵝

爰及竹、不以鵝、鵝翼饭鵝、鵝

花之火、花之火、花之火

木之火、花之火、花之火

花之火、花之火、花之火

木之火、花之火、花之火

花之火、花之火、花之火

花之火、花之火、花之火

花扇

心の花

花袋

花桔梗

花の春

花瓶

花の衣

花菖蒲

花の轎

花むし

花軍

花足車

花の盆

花の主

花と豪

花くき

花の主

花の秋

花くき

花の主

花と醉

花くき

花の主

花の秋

花くき

花の主

花と醉

花くき

花の主

花の秋

花くき

花の主

花と醉

夏の別

夏津

夏とね

夏道

夏の處

夏とぞ

夏の朝

夏月

夏とく

夏の夜

夏月

夏とく

夏の暮

夏月

夏とく

夏の朝

夏月

夏とく

桃や杏 育萬葉 紅雲根
水馬 宿禪桂 壇石西壁 安堵隱
香ひす 久國 猶射 宿禪桂
スイバ

宿禪桂 壇石西壁 安堵隱

大寒島 桂萬葉 紅雲根

山田園者 桂萬葉 紅雲根

大寒島 桂萬葉 紅雲根

圓柱

卑少

圓柱子

肩圓

坐大

圓柱頭

卷面

圓柱頭

卷面頭

拗橫

拗毛子

拗橫毛

小梅的實

胡麻子

小梅的實

水密

冰室

冰室

圓柱

夏

宵

宵

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

王

寫はゆる

ひのむ

川骨

石のゆ

まきり

楊柳

さんご

蓮

荷葉

白茎

まきり

川骨

金子

竹の皮

竹の皮

蒲の種

深海

蘭川

鷺の葉

久の花

紙を金

凌霄

虎の尾

風葉

鶴の脚

赤葉

夏林

麻の葉

青鬼打

葛の葉

錦の花

ひのき

ひのき

鶴の脚

水うり

胡麻

雀の脚

夕魚の口

麻の葉

鶴の脚

水うり

麻の葉

鶴の脚

火とよ虫

火とよ虫

秋七月

桐秋

蘭月

孟秋

文月

明景

初秋

女郎七月

首秋

秋の初月

一葉

契の爲め

秋の涼

秋の涼

秋の涼

秋の暮

星のまつ

さくよね

七夕のた

女七夕

男七夕

七星

星の葉

寧牛

鐵女

星の娘

星めぐら

天の川

星の娘

新漢

星の娘の娘

金と切系 金と切付 金とせ

十三

そまへよ うえの雲 すまのい
繁ふ高 モカフラ 菜 わらぎ

友をもひ 小車の元 冬のこゑ
すれもさみ さとと花 桃の実

本風の実 タトの実 旋覆花
槐の実 今がのも 基の実

埃樹 あき あき 朝霞
猿とく はづく はづく 霜

西丸 あく あく 初霜
ひきえん てきり てきり 霜

雲穂 たかく たかく 初霜
ひきえん てきり てきり 霜

秋の暁 たまめのひ たまめのひ 初霜
稻の毛 たまめのひ たまめのひ 霜

室のあき 稲葉のあ 秋の吸
るわ小虫 ちばねのひ ちばねのひ 霜

東とく あき あき 虫食
るわ小虫 ちばねのひ ちばねのひ 霜

三 びせん 三禁を守る 千葉
角力 くに 力 神の鳥

夷の海 うなみ 素

夷とく うなみ おこひう

萩敷 うなみ 戀

野鷦の萩 うなみ 素

千葉 月の桂 月の東
月の桂 うなみ 月の東

立田宿 ひたしゆく ひたしゆく

望月の名

秋の月

月の名

秋見月

麻

うせき

秋月

鹿村

かのまく

秋月

小舞

かのか

秋月

康笛

やまと

秋月

解

かわせ

秋月

出

でゆ

秋月

初簞

はじまり

秋月

松

まつ

秋月

柳

やなぎ

秋月

梅

うめ

秋月

柏

ひのき

秋月

新薑

しんば

秋月

柏子

ひのき

秋月

柏子

ひのき

秋月

柏子

ひのき

秋月

柏子

ひのき

秋月

仲秋

葉月

壯月

秋月

桂月

南呂

竹春

秋月

月夜	月	十五日
十五夜	十五夜	十六日
十六夜	十六夜	十七日
十七夜	十七夜	十八日
十八夜	十八夜	十九日
十九夜	十九夜	二十日
二十夜	二十夜	廿一 日
廿一夜	廿一夜	廿二日
廿二夜	廿二夜	廿三日
廿三夜	廿三夜	廿四日
廿四夜	廿四夜	廿五日
廿五夜	廿五夜	廿六日
廿六夜	廿六夜	廿七日
廿七夜	廿七夜	廿八日
廿八夜	廿八夜	廿九日
廿九夜	廿九夜	三十日
三十夜	三十夜	初一日
初一夜	初一夜	次日
次一夜	次一夜	初二日
初二夜	初二夜	初三日
初三夜	初三夜	初四日
初四夜	初四夜	初五日
初五夜	初五夜	初六日
初六夜	初六夜	初七日
初七夜	初七夜	初八日
初八夜	初八夜	初九日
初九夜	初九夜	初十日
初十夜	初十夜	十一日
十一夜	十一夜	十二日
十二夜	十二夜	十三日
十三夜	十三夜	十四日
十四夜	十四夜	十五日
十五夜	十五夜	十六日
十六夜	十六夜	十七日
十七夜	十七夜	十八日
十八夜	十八夜	十九日
十九夜	十九夜	廿日
二十夜	二十夜	廿一日
廿一夜	廿一夜	廿二日
廿二夜	廿二夜	廿三日
廿三夜	廿三夜	廿四日
廿四夜	廿四夜	廿五日
廿五夜	廿五夜	廿六日
廿六夜	廿六夜	廿七日
廿七夜	廿七夜	廿八日
廿八夜	廿八夜	廿九日
廿九夜	廿九夜	三十日

月夜	月	十五日
十五夜	十五夜	十六日
十六夜	十六夜	十七日
十七夜	十七夜	十八日
十八夜	十八夜	十九日
十九夜	十九夜	廿日
二十夜	二十夜	廿一日
廿一夜	廿一夜	廿二日
廿二夜	廿二夜	廿三日
廿三夜	廿三夜	廿四日
廿四夜	廿四夜	廿五日
廿五夜	廿五夜	廿六日
廿六夜	廿六夜	廿七日
廿七夜	廿七夜	廿八日
廿八夜	廿八夜	廿九日
廿九夜	廿九夜	三十日

六十日 かあす 鳥。鷦

開蓬 蓼 猶 蓼蓬

豆莢や 因公 すと

鷺 不トも めがこ 鷺鷺

縣のあす 鷦鷯のあす 鷦鷯のあす

鷺のあす 鷦鷯のあす 鷦鷯のあす

秋九月 菊紅葉月小苗刈月晚秋

赤子秋暮秋長月

秋の秋

冬

十月 小春 孟冬 良月

玄冬 初冬 陽月
時雨神月和霧
立陽月

立春端

立年之候 神之始

神之始

立之歲 神之始

大掃

相大掃 時為

巨祓切

禊大 素之始

大掃

相大掃 時為

新羅王山

平水草上

牡丹草日

松尾草八月

當土草上

梅宮草中

白草草中

大桑草中

吹草草八月

小桑草中

日暮草繁日暮草

野火草

里北草

小桑草中

日暮草繁日暮草

小桑草中

日暮草繁日暮草

大桑草

日暮草繁日暮草

小桑草中

日暮草繁日暮草

秋をきし 細代ち わくらま
水魚 うみゆ み魚

村鶴 そんづる 漢ちかう 浦の鳥

門ちかう 破ちかう 夕波鶴
あとう星 あこう うき星

鷺夷 さる夷 鷺夷鶴 ささけ
あ鶴 あつる 鷺夷鶴 ささけ

初鱗 はつりん あも野鶴
まうり飛 まうりひ 白炭 しらす

岸境 きしりや 朝霞 あさか
大神 おおみ 朝霞 あさか

九疊巾 くじゆきん 朝霞 あさか
御衣 ごい 朝霞 あさか

腰邊 こしわき 朝霞 あさか
冬十月 とうじゆく 朝霞 あさか

仲冬復月 ちゆうとうふげつ 朝霞 あさか
黃鐘暢月 こうしょうじやく 朝霞 あさか

祿樂月 ろくらくげつ 朝霞 あさか
霜降月 しやくこうげつ 朝霞 あさか

平生參上 へいじやうさんじやく 朝霞 あさか
紫雲參上 しゆんやうさんじやく 朝霞 あさか

松尾參上 まつおやうさんじやく 朝霞 あさか
日暮參上 ひぐれやうさんじやく 朝霞 あさか

鶴の歌 つるのうた 朝霞 あさか
四大燒 おほてんや 朝霞 あさか

樹鳥 じゆとり 朝霞 あさか
大師燒 だいしうや 朝霞 あさか

新嘗祭 しんじやく 中豈山 なかぬま 山紹集
大師燒 だいしうや 山紹集 さんしゅうしゆ

鰐魚 うなぎ 鮎魚 うなぎ
鰐魚 うなぎ 鮎魚 うなぎ

圓の市 波恩溝

初津糸

雪乃げ まれる

うきよ

なづか 解寒

雪乃解

馬女 雪乃

馬ノ子

馬在袋 雪ノ子

馬ノ子

馬あじ 六の花

あゆ

わね

わね

凍 氷

うきよ

ぬ氷

ぬ氷

冰の鏡

うきよ

高麗水

高麗水

高麗水

高麗水

大葉

大葉

大葉

大葉

太呂極月

除月

太呂極月

除月

太呂極月

除月

太呂極月

除月

冬青

李冬青

冬青

李冬青

冬青

李冬青

冬青

李冬青

冬青

李冬青

冬青

李冬青

正

節季セキシ 年ニ年ニ 国クニす

年ニ年ニ 比ヒ取ル 年ニの娘コドロ

年本想コトコト トト比ヒ取ル 年ニ年ニ

年の市シ 年ニの市シ ほけの市シ

年志シ 年ニ志シ ほけの市シ

年志シ 休テ休テ ほけの市シ

附雜の花泡

雜セキ 幸ラバ さくらば

附雜の花泡

ア豆

鷺の泉

経をひ

坐わしひ

改の事

貢代弟

梅壺

柳桟

筆生

酒代屋

酒代車

黄家

爰

芦

加

心の月

テ次

猪毛

洞の美

花嫁

日新

花の帽

花園

花火

戀

急の酒

花火

恋

思思

花の聲

戀

思

花の聲

(増)

初の火鳥が駆ひよ安堵から
まことにあつて安堵うらばしも
あそ御はくもきをかゆくみ
左毛羽のうちもさすとくも
酒井が急のきとくも安堵
の意も坐とくがわゆみと
きりとくば

奉するもも難師のあつ
是実急き

先事もうへ小物をゆきま
先事もうへ小物をゆきま

小物をゆきま

小物をゆきま

小物をゆきま

大男はたれを考へて
ぬの字をかき算をかき算をか
の字をかき算をかき算をか

理立わへるをしきを
経へるをしきを

未未べつあじしきを
す

は二三とゆきのす
吉

○禁護物切字
卷之二

○句數之事

春秋

ニカタリハムセドアキテ
アマスルナシ

夏冬

アラリハムセドアキテ
アマスルナシ

魚

ニカタリハムセドアキテ
アマスルナシ

朴綵

アマスルナシ

萩森

アマスルナシ

族

アマスルナシ

水毛

アマスルナシ

人倫

アマスルナシ

人倫

アマスルナシ

人倫

アマスルナシ

人倫

アマスルナシ

人倫

アマスルナシ

火斧

アマスルナシ

火斧

アマスルナシ

火斧

アマスルナシ

火斧

アマスルナシ

火斧

アマスルナシ

月松竹田愛後松
衣布櫻四季

ひかへも去而れをうても隨
月をあきとて風をうても

之日零月させし但月の
月をはせあわば

父母男女八箇の九箇之二古
父母男女八箇之二古

色誰身福媛はみゆも人倫
とすがん修守めりまきり人倫

とすがん修守めりまきり人倫
とすがん修守めりまきり人倫

同增補新撰

天女 市門 帆 仙洞

○
○
○
○
○

○
○
○
○
○

朴教と歎古の付。後あつて
利者も兵城のそくを
きめがたへ増川而ままで
游も二十年兵もせん
右六そハ故実の説
送り事やうひえをて佐さ
達の一章康代をもす
達子少慶比翁ふ久みす
秋もと夜あれよか
経とよつとを衣無し
命もとゆるはれもく
衣三そハ経候よしもへ
経乞ト製服くのむる能いとく
ひじくあづば姫の絶体
ほの端様をもすくつ
やめあまふ逃出一の達
おもふよく少めうもあつた
ひとにりある傷の男
ひじくあづば姫の絶体
ほの端様をもすくつ
やめあまふ逃出一の達
おもふよく少めうもあつた
ひとにりある傷の男

達子少慶のくわくとも
通多事害を承もあすま
新舊一にうけんなども
元彼よりひと元ひとまくま
かす一傳うねどん

增ト十六篇句體

不易歟
被襦もわなをもあれよし比ム
う賣に厚められをまひと舞

流行歟
まのちに連ひよぐたをす
夷縫歌妻ふ持毛をす

理屈歟
升の色ぬよすきまうね
石門よ不二のれふきゆす

拾式歟
まもれやれよすきまうね
続舞はまは舞事焉れひ

蓄合場

詠歌のをちやゆら全員有
るきの居すひまやかしまく
句比甘く

集のと年鳥を以て云うも
名月や度次込ひはのと
句比淡く

乐天も我と無くわのうみ
れとてわあきよしに書
常れも

じりと扇とまんじとま
納歌のめぐらすや八九月
植木や自慢でまつづ
春蟲は自慢でまつづ
取留了場

の萬葉の眉れりうち死
ゆ一場

やくまく等やぬれれりて鳴り
鳥の跡院小流ノミ若のむ
句の春

考もあゆく等やぬアメリ
去北せ流と一鳥 鳴きの聲
未來取勺

集の春の春と等やねうづ
而も上室ねとお穂のめぐ
手と放句

角と乞ふを都れかとまん
ねりや野をうちて秋の紅葉
氣色

いの月秋鳥のとまく
秋の音もあひてあえう

同一轉

多角也。ひまわりやおなみの
日中もとれ。はや運され
心の向

ま事はよどむ。ほせの初より
肩やたもみのむく。似て
同一轉

角改ゆとも。投する。元ひと
豪毛ふむ。まじきよ。まく
併がる。同音。相端。去參。高尾

家伽法師
あらわす。黒髪。引うな
手の段。横。と。走。下

弘化二乙巳歳
初秋。斬割

大坂心臓病通安生寺町
秋田屋夫太郎

日本橋南二丁目
須原屋茂兵衛

江芝神明前
同二丁目
山城屋喜兵衛

芝岡田屋嘉七

本石町十軒店
助 大助

淺草茅町二十日
須原屋伊八

户
鞠町十二丁日
三田屋喜兵

浅城縣真壁郡六國村高久
學大533受3

